

# 生き物いるかな

みんなで作った魚礁を観察

魚ふれあい振

水中の生態系に興味をもってもらおうと、

両毛漁業協同組合(桐生市菱町)を母体とする市民団体・渡良瀬川水系魚ふれあい振興会(会長＝中島淳志・同

漁協組合長)が親子向けに開いている体験講座「ふれあいワークショップ」。その一環として、昨年11月に参加者らが作った魚礁のその後の様子を観察するモニタリングがこのほど、桐生市梅田町の梅田湖で行われた。水産庁の水産多面的

機能発揮対策支援事業として、同振興会が2013年度から年3回

ペースで開いている講座シリーズ。15年度は魚礁づくりとその観察をテーマにした。

魚がカワウなどから身を隠す場所になるほか、微生物が繁殖して水生生物のえさになったり、魚の産卵場所になったりする魚礁。前回の講座で、鉄パイプ

の枠組みにスギ丸太と竹の束をつめて1辺90センチの立方体の魚礁を三つ作り、水中で定位するように沈めた。モニタリングでは、水中に小型カメラを入れて魚礁を観察したほか、十数人がかりで湖畔に引き上げて経過を確認。丸太の間に魚がいるなど一定の効果が見られた。

引き上げた魚礁は竹の束などをつめ直し、再び水中へ。今後も手入れと観察を続ける計画で、中島会長は「豊かな生態系をつくる取り組みの一つとして、魚礁の役割を引き続き啓発できるように、16年度以降もこうした事業を続けたい」としている。



4カ月前に沈めた魚礁を観察するため水中から引き上げる関係者ら(梅田湖で)